

古文読解へのアクセス

第一講・古文読解の戦略

「古文」↓昔の日本語⇐

古文の長文↓

一. 文章の読解で大切なことは？↓

現代国語・英語で正確に読む方法は

① 「誰が」・「何を」↓「主語」

② 逆接の後ろに主張「評論」

③ 心情の把握「小説」

古文では正確に読む方法は？↓

二. なぜ古文が読めないか？↓

Q. 使ったって……どうすれば？？

A. (英語と違い)語順は同じ。現代国語・英語と同じように読む

しかし、注意点！

① 「誰が」・「何を」↓「主語」↓

② 逆接の後ろに主張「評論」↓

③ 心情の把握「小説」↓

古文読解へのアクセス 第二講・主語の発見

古文の主語↓

↓わからない

↓主語を ・ 主語が

主語の確定

一. 文末《〜〇、〜》

① 文末が「て」（を）して「」で（を）せずに・できずに（↓）②

② 文末が「を」「に」「ば」「が」など↓②

二. 接続

○ 逆接で主語が変わる場合も A B

「と」「ども」「されど」「しかれども」「もの」「ものから」「ものを

「ものゆゑ」「こそ」「已」・（文脈で）「を」「に」「が」「ながら」

三. +α: ○ 会話に「」をつけると主語はハッキリ《「〜」と》の形

〔練成問題〕主語を二重線で指摘し、省略部にはくを入れ、会話に「」をつけよ
無名といふ琵琶の御琴を、上の持て渡らせ給へるに、見など
してかき鳴らしなどすと言へば、弾くにはあらで、緒などを手
まさぐりにして、これが名よ、いかにとかと聞こえさするに、た
だいとはかなく、名もなしと、宣はせたるは、なほいとめでたし
ところおぼえしか。

（『枕草子』第八九段）

逆接は大事↓逆接の後には「 」

○逆接の種類

「と」「とも」「やれど」「しかれども」

「もの」「ものから」「ものを」「ものゆゑ」

「こそ―「は」」

(文脈で) 「を」「に」「が」「ながら」

○「こそ―「は」、」

○「を」「に」「が」「ながら」

①《体言＋「を」》

②《「体」＋「を」「に」「が」》

〔識別〕

に接続

連体形の下に 「こと」「もの」が補えない。

↓順接・逆接

③《ながら》

①くしながら・しつつ ②逆接

訳してみても意味が通るか確認

古文読解へのアクセス

第四講・推量の助動詞と時制

推量 ↓ 「くだらう」と訳出

基本は「む・むず」

意味はスイカカエテ「推量」「意志」「勧誘」「仮定」「婉曲」「適當」

「識別」①文末…Ⓢ一人称「意志」／Ⓢ二人称「適當・勧誘」／Ⓢ三人称「推量」

②文中…《む「体」＋助詞》「仮定」／《む「体」＋体言》「婉曲」

「む」

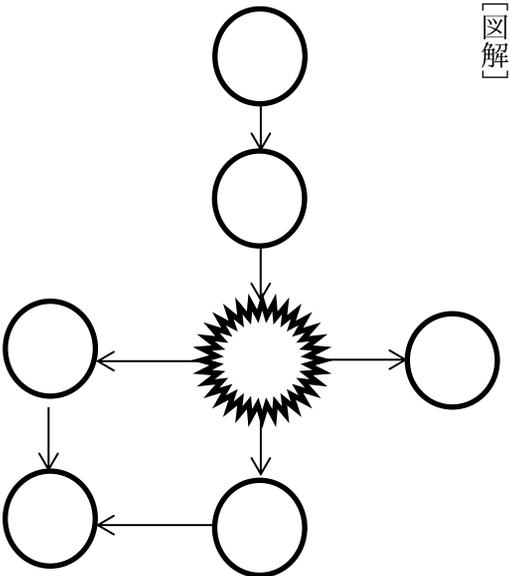
強める

「べし」意味はスイカトメテ「推量」「意志」「可能」「当然」「命令」「適當」

「識別」①文末…Ⓢ一人称「意志」／Ⓢ二人称「適當・命令」／Ⓢ三人称「推量」

②打消 ↓ 「可能」／疑問・反語 ↓ 「可能」・「推量」

「図解」



推定(根拠に基づく)

らしー根拠ありー「」

めりーで見た「」

なりーで聞いた「」

(伝聞)「という

」と聞く

なり(断定)体言「体」+なり